

【資料5】第1期計画まとめ資料【行政がおこす】

アクションプランの「行政がおこす」項目について、事業調査を開始した平成28年度（前期）と最新の令和2年度（後期）の事業数を比較したもの。

環境づくり				古賀市の個性をおこす												古賀市の新しい魅力を興す											
前期		後期		宝をみつける			宝をいかす			宝を伝える			宝を守る			人にやさしいまちづくり			ざわめきづくり								
項目	H28 事業数	項目	R3 事業数	項目	H28 事業数	項目	R3 事業数	項目	H28 事業数	項目	R3 事業数	項目	H28 事業数	項目	R3 事業数	項目	H28 事業数	項目	R3 事業数	項目	H28 事業数	項目	R3 事業数				
公募型補助金の募集をいかし、文化芸術活動団体の活性化を図ります。	4	公募型補助金の募集をいかし、文化芸術活動団体の活性化を図ります。	0	歴史資料館などの文化施設を活用した学習の機会を設けます。	9	リーバスプラザこがなどの文化施設を活用した学習機会を提供します。	23	文化芸術活動を行う個人や団体を、行政が行う事業に積極的に活用します。	9	文化芸術活動を行う個人や団体を行政が行う事業に積極的に活用します。	14	文化芸術活動団体の活動紹介や歴史的な文化財などを市内外にインターネット、新聞、広報などさまざまなメディアを使います。	2	古賀市が誇る文化、歴史、風景などの環境や文化芸術活動を積極的に市内外へ情報発信します。	17	文化財の保存、継承、整備を行います。	1	文化財の保存、継承、整備を行います。	5	アートバス、子どもアート教室など、子どもが文化芸術に親しむ機会を学校と連携を図り、提供します。	8	子どもたちが文化芸術に親しむ機会を学校と連携を図り、提供します。	6	他部局との事業連携を図り、情報を共有し、新しい発想の事業を検討します。	3	他部局との連携を図り、情報を共有し、新しい発想の事業を進めます。	2
生涯学習センターの整備を行います。	1	—	—	子どもたちが見つけた地域の魅力を市内外に発信していきます。	2	教育機関との連携を図りながら、子どもたちの視点を大切にした文化芸術活動を目指します。	3	地域での文化芸術活動の活性化をめざし、公民館や新たな活動場所を開拓します。	3	地域での文化芸術振興の活性化をめざし、地域施設の活用を進めます。	3	—	—	—	—	生涯学習センターに授乳室、エレベーター、スロープなどを設置し、さまざまな人が使いやすい施設にします。	0	—	—	0	「まつり古賀」や「食の祭典」などの観光・産業の振興を文化芸術活動で支援します。	2	観光・産業を文化的資源や文化芸術活動と組み合わせることで、お互いの新たな魅力を発見し、活性化を図ります。	0			
古賀市文化芸術振興アクションプランを全戸配布し、啓発を行います。	0	—	—	中学校美術部や古賀競成館高等学校ベシックデザインコースとの連携を図り、まちづくりにかします。	1	—	—	近隣都市圏の文化芸術活動を調査研究し、新たな視点で事業を再生します。	0	近隣都市圏の文化芸術活動を調査研究し、新たな視点で事業を再生します。	0	—	—	—	25	文化の仕掛人やコーディネーターを育成します。	0	—	—	0	文化芸術団体の新たな人材育成を進めます。	1	—	—	—		
地域に文化芸術活動を推進する人材を育成します。	2	文化芸術と他のジャンルが交流・協働する機会をつくりまします。	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	児童館から図書館など、子どもが幼児期から文化芸術に触れる機会を提供します。	10	子どもたち、子育て世代、シニア世代が文化芸術に触れる機会を提供します。	10	—	—	—	—	—	—		
文化芸術に関するネットワークづくりを行います。	1	文化芸術に関するネットワークづくりを行います。	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	文化芸術活動に託児サービスの提供を推進します。	0	—	—	—	—	—	—	—	—		
文化芸術に関する情報の収集、提供を一元化するなどの、センター的機能を担う拠点の整備を行います。	0	文化芸術に関する情報の収集・提供を一元化するなどの、センター的機能を担う拠点の整備を行います。	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	近隣都市との広域的な連携を図ることで、文化芸術振興へいかします。	2	近隣都市との広域的な連携を図ることで、文化芸術振興へいかします。	2	—	—	—	—	—	—		
本計画をさまざまな機会に啓発を行い、文化芸術に関する意識啓発を行います。	1	本計画を様々な機会に啓発を行い、文化芸術に関する意識啓発を行います。	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	子育て世代、シニア世代、障がい者、外国人などが活躍できる、文化芸術の学びの場を提供します。	10	全ての市民が参加できる、文化芸術の場を提供します。	10	—	—	—	—	—	—		

行政からみたアクションプランの振り返り

成果は文化芸術活動の場となる「リーバスプラザこが」の完成。その他の事業は横這い。

おおむね事業数増。リーバスプラザこがの完成により事業及び発信が伸びたものと思われる。

「人にやさしいまちづくり」については事業数増加傾向。「全ての市民が参加できる文化芸術の場を提供します。」は前期項目からの引継ぎのため事業数が減っているが、現在の市の事業において障がい等の事情で参加を拒むものは基本的に無く、またそうなるべきという考えが根付いている。一方「ざわめきづくり」は大きな進捗がみられず、次期計画の課題となると考えられる。

リーバスプラザこがの完成により、ハード面の政策は前進を見せている。またリーバスプラザこがを利用して、個々の事業も増加傾向にある。しかし「文化芸術を通して誇りをおこす」「おこした誇りを次世代へ引き継ぐ」までの到達ができたとはいいいがたく、1期計画に残された課題、及び感染症対策問題などへの新たな課題を考慮しつつ、この10年で進めてきたものを更に押し進め、次世代につないでいくための政策を考えていかねばならないと考える。